

2005年9月26日

各位

三共株式会社  
参天製薬株式会社

## CS-011のドライアイ治療剤としての契約の締結について

三共株式会社(本社:東京都中央区 社長:庄田 隆、以下三共)と参天製薬株式会社(本社:大阪市 社長:森田隆和、以下参天製薬)は、本日、三共が糖尿病治療薬として開発中のCS-011(リボグリタゾン)について、ドライアイを主とした角結膜上皮障害治療剤としての適用を目指し、全世界での独占的開発、製造および販売に関する契約を締結しました。

今回の契約に基づき、三共は原体の製造と供給を行います。また、参天製薬はドライアイを主とした角結膜上皮障害治療剤の開発、製造、販売を行います。なお、三共は日本国内における参天製薬との共同販売権を留保します。

現在ドライアイの患者さんは日本国内でも800万人以上いると推定され、パソコンの普及や高齢化などにより今後も患者さんの数は増加すると予想されます。ドライアイは“眼が乾く”だけでなく、眼の表面を傷つけることから、その治療の重要性は高まっていますが、重症例を中心に必ずしも治療ニーズが満たされているとは言えません。

CS-011は、経口糖尿病治療剤としてフェーズ2b試験が米国で進行中ではありますが、参天製薬はCS-011が点眼薬としてドライアイを主とした角結膜上皮障害に対する強力な改善効果を有するを見いだしました。CS-011は、現在発売および開発中のどのものとも異なる作用機序を有し、角結膜上皮細胞に直接働きかけることで強力な角結膜上皮障害改善作用を発揮すると考えられています。

三共としては、医療用眼科薬の日本のトップメーカーで、また、国際的にも主力メーカーであり、優れた開発力、販売力を有する参天製薬への導出により、CS-011の製品価値の最大化を図ります。

参天製薬は、角膜疾患領域において国内ではすでに販売している角結膜上皮障害治療剤「ヒアレイン®」に加え、複数の開発プロジェクトを保有していますが、それらとは全く異なる作用機序を有するCS-011が加わり、国内の開発パイプラインが更に強化されるとともに、海外においても強い競争力を期待できる製品候補を有することになります。

なお、三共と参天製薬は2002年3月に緑内障治療薬CS-088(DE-092:オルメサルタン/フェーズ2)で提携を開始しており、本品目で2例目の提携となります。両社は、同領域において、患者さん一人ひとりの症状にあわせた処方提案の充足ならびにより多くの患者さんのQOL向上に貢献するため、相互に協力を進めてまいります。

以上

参考資料添付:

参考:

**ドライアイ:**涙液分泌の低下や自己免疫性疾患などにより涙液に質的あるいは量的な異常がおり角結膜の上皮に障害がおこる疾患です。

なお、参天製薬ではドライアイに関する詳しい情報を「HELP! ドライアイネットワーク」(<http://www.help-dryeye.com/>)にて提供しております。

## ドライアイの発症機序

